

さよならのかわりに玉手ばこをどうぞ

仙台市立向陽台小学校 二年 柏崎 日向子

私は、今年の六月にパリから仙台にかえってきました。

「日向子ちゃん、おかえりなさい。」

と、ごきんじよの人が言ってくれました。

「ただいま。」

と、こたえました。うらしま太郎は、玉手ばこをあけたら、おじいさんになってしまいました。私の心の玉手ばこを三年ぶりにあけてみたら、あつたかい言ばが、ぼわあんと出てきました。とても、うれしくなりました。

私は、五さいの六月にパリに行きました。たくさんのお友だちが、私にさよならを言いました。さよならは、二どと会えないような気がして、かなしくなってしまうから、きらいです。

四さいのときも、ようちえんのお友だちとさよならをしました。お父さんの、おしごとのつごうです。そのときもかなしくなってしまうました。でも、そのおかげで私は、せかい中にお友だちをつくることができましたのです。

パリ日本人学校では、たくさんの人がてん校してきましたり、てん校して行ったりしました。お友だちのおわかれ会のあと、私はいつも、

「今どまた会おうね。」

と言つて、えがおであく手をしました。私からお友だちへ、そつと、玉手ばこのプレゼントです。おわかれ会ではなくて、また会う会にすればいいのになと、いつも思いました。

私はパリからひっこすときに、だれにもさよならを言いませんでした。そのかわりに、

「今どは、日本で会おうね。」

と言つてきました。さよならを言うよりも、かなしくはならなかつたし、しよう来のやくそくをしているようで、すこしむねがドキドキしました。

でも、どうしても、さよならのときがあります。人がしぬときです。ひいおばあちゃんなくなつたとき、それが、さよならのときでした。今、私はいつでも、ひいおばあちゃんを思い出すことができます。

「それは日向子の心に、ウメおばあさんが生きつづけているからだね。」

と、お母さんは言います。人がしんでも、心と心は、さよならではないのかもしれないかもしれません。思い出がたくさんつまつた玉手ばこを、みんながもっているからです。

私はやつぱり、さよならよりも、今どまた会おうねのほうがすきです。そして、今どまた会えたときには、とびっきりのえがおで、おかえりなさい、とか、ただいまと言うのです。

うらしま太郎さんへ。今どは、しんかんせんにのつて私のうちに来てください。おみやげに、玉手ばこをさしあげます。元気がなくなつたら、あけてください。きつと、えがおになれますよ。